

REPORT

第1回 日本臨床薬理学会関東・甲信越地方会を終えて

聖マリアンナ医科大学薬理学

松本直樹

会期：2016年9月3日(土) 10:20~16:00

会場：横浜市社会福祉センター(横浜市)

会長：松本直樹(聖マリアンナ医科大学薬理学)

1. 開催概要

第1回日本臨床薬理学会関東・甲信越地方会を2016年9月3日(土)に横浜市社会福祉センターで開催した(Figure 1)。関東・甲信越地区は、日本臨床薬理学会としては最大の会員数を擁する地域でありながら、臨床薬理富士五湖カンファレンスが開催されなくなってから暫時経過した最近では、同様の研究会が開催されることがなかった。日本臨床薬理学会としては、正しい薬物治療の推進などを目的とした学会の設立目標を、より高い次元で達成することを目的として、全国各地で地方会組織を立ち上げ(Table 1)、その活動の一環として、地方会を開催することとしたが、今般の学会が、関東・甲信越地区での第1回目の地方会であった。

近年、臨床薬理学会の活動は薬物の臨床開発に関する研究および実践活動が非常に盛んで、学会員の期待もその分野で大きい。しかし「正しい薬物療法」のための学習の場の提供も大変に重要なことであり、その2点を学会の中心に据えられるようにすることを考えて、2つの教育講演による臨床試験実施のポイントの学習、2つのシンポジウムは「BedからBenchへ、そしてBenchからBedへ」という副題を持った臨床と基礎を橋渡しするような薬物開発を含む研究を題材としたものと、純粋に薬物開発における話題を扱うものとした。また一般演題を募集する際には、「医師と薬剤師が必ずコメントできる体制を整える」セッションとすることを広報して公募し、7題の治療経験報告関連の演題と、6題の臨床試験実施支援関連を中心とした演題の応募を得、午前午後に分けて全てを口述発表いただいた。

会場は日本臨床薬理学会を社会福祉団体と認定いただいたうえで、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会が運営する、横浜市社会福祉ホールをお借りした。桜木町駅から至

第1回 日本臨床薬理学会
関東・甲信越地方会

会期 2016年9月3日(土) 10時20分~16時

会場 横浜市社会福祉センター(桜木町駅 徒歩2分)

会長 松本直樹(聖マリアンナ医科大学薬理学)

特別シンポジウム

「BedからBench、そしてBenchからBedへ」

横田 紀子(東京大学大学院医学系研究科 腎臓・内分泌内科)

山野 嘉久(聖マリアンナ医科大学 大学院・先端医療開発学)

小林 真一(昭和大学 臨床薬理研究所)

教育講演

山崎 力(東京大学医学部附属病院 臨床研究支援センター)

「臨床研究の信頼性確保」

浅井 隆(獨協医科大学越谷病院 麻酔科)

「医療統計の基礎のキノ」

シンポジウム

「MID3 (Model Informed Drug Discovery and Development) と臨床薬理」

川口 敦弘(田辺三菱製薬 創薬本部 データサイエンス部)

鈴木 昭之(ファイザー クリニカル・ファーマコロジー部)

牛島 健太郎(自治医科大学医学部 薬理学講座臨床薬理学部門)



横浜市社会福祉センター

演題受付期間 現在受付中~6月30日(木)まで

ホームページ(URL: <http://www.marianna-u.ac.jp/jscpt/theme.html>)より抄録テンプレートをダウンロードして下さい。抄録を記載後、学会事務局へ、メール(E-mail: hs-yakuri@marianna-u.ac.jp)にてお送り下さい。

なお、メールのタイトルに「関東甲信越地方会演題登録」と記載して下さい。

事前登録期間 5月9日(月)~8月22日(月)

参加登録費用(当日受付にて支払い)

日本臨床薬理学会会員 2,000円

非会員 3,000円

学生(大学院生、非会員も含む) 500円

事務局 聖マリアンナ医科大学 薬理学講座

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1

TEL: 044-977-8111(内線353) FAX: 044-975-0509

URL: <http://www.marianna-u.ac.jp/jscpt/index.html>E-mail: hs-yakuri@marianna-u.ac.jp

Figure 1 ポスター

近であるにもかかわらず、非常に低廉な利用料金で使用させていただくことができ、加えて全ての作業を当講座内部で処理できたこと、学会員の運営へのボランティア、広告・

著者連絡先: 松本直樹 聖マリアンナ医科大学薬理学 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1 E-mail: matsumoto@marianna-u.ac.jp
投稿受付2016年10月13日, 掲載決定2016年10月20日

ISSN 0388-1601 Copyright: ©2016 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (JSCPT)

Table 1 一般社団法人日本臨床薬理学会 関東・甲信越地方会 世話人 (発足時)

支部代表:	下田 和孝 (獨協医科大学精神神経医学)
監事:	藤村 昭夫 (自治医科大学医学部臨床薬理学・分子薬理学)
世話人:	赤真 秀人 (エーザイ(株)エーザイ・プロダクトクリエイション・JAC 創薬ユニット)
	荒川 義弘 (筑波大学つくば臨床医学研究開発機構)
	岩崎 甫 (山梨大学融合研究臨床応用推進センター)
	内田 直樹 (昭和大学医学部薬理学講座臨床薬理学部門)
	越前 宏俊 (明治薬科大学薬物治療学)
	川合 真一 (東邦大学医学部内科学講座膠原病学分野)
	川口 敦弘 (田辺三菱製薬(株)開発本部臨床薬理部)
	熊井 俊夫 (聖マリアンナ医科大学大学院遺伝子多型・機能解析学)
	熊谷 雄治 (北里大学病院臨床試験センター)
	小林 真一 (昭和大学臨床薬理研究所)
	佐藤 淳子 (独) 医薬品医療機器総合機構)
	志賀 剛 (東京女子医科大学循環器内科)
	染矢 俊幸 (新潟大学大学院医歯学総合研究科)
	鶴岡 秀一 (日本医科大学腎臓内科)
	中村 哲也 (群馬大学医学部附属病院臨床試験部)
	花田 和彦 (明治薬科大学薬理学)
	春木 宏介 (獨協医科大学越谷病院臨床検査部)
	本間 真人 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)
	松本 直樹 (聖マリアンナ医科大学薬理学)
	松本 宜明 (日本大学薬学部臨床薬物動態学)
	山崎 力 (東京大学医学部附属病院臨床研究支援センター)
	湯地 晃一郎 (東京大学医科学研究所国際先端医療社会連携研究部門)
	横須賀 収 (千葉大学大学院医学研究院消化器・腎臓内科)

寄付をいただけたことで、当初危惧されていた首都圏開催の経済的問題は発生せずに終了できた。このことには関係各位に感謝申し上げたい。

参加者は事前登録も行ったが、当日集金とし、当日参加も可能な形を採った。唯一、お弁当を提供する形を採った教育講演だけは事前登録名簿により優先入場とし、お弁当を配布した。なお、お弁当はスポンサーが付かず、学会運営予算の中から支出した。

参加者は合計 200 名であり、内訳は会員 89 名、非会員 85 名、学生 3 名、その他、寄付をいただいた方などをご招待とした無料入場者 23 名であった。会費は学会員 2000 円、非会員 3000 円、学生 500 円とし、日本臨床薬理学会への当日入会者は会員として扱い、4 名の新入会員を得た。

学会当日、アンケート用紙を配布した。結果は Figure 2 に示す。配布数は 169 枚、回収 91 枚、回収率 54%であ

た。参加者の所属は大学・研究機関と病院が拮抗し 35%程度、SMO が 20%強であった。職種は CRC 32%、薬剤師 30%、医師 26%の順であった。印象的だったのはこの学会開催認知の手段であるが、電子メール、ネットの情報が非常に多かった。今後の参考になる結果である。

なお日本臨床薬理学会認定単位(参加 10 点、発表者 5 点、共同発表者 2 点・自己申告制)に加え、日本薬剤師研修センター、日本病院薬剤師会の参加証明も配布した。

2. 教育講演

教育講演は午前中、教育講演 1 としてホールにて、教育講演 2 として昼のランチョンセミナーの形で会場 2 にて開催した。

教育講演 1 は「臨床研究の信頼性確保」を、東京大学医学部附属病院・臨床研究センター、山崎力氏(座長:昭和大学医学部薬理学講座臨床薬理部門、内田直樹氏)にご講演いただいた。非常に実践的な臨床研究実施の方法、注意点等を判りやすく解説いただいた。

教育講演 2 は「医療統計の基礎のキソ」を、獨協大学越谷病院麻酔科、浅井隆氏(座長:聖マリアンナ医科大学大学院先端医療開発学、山野嘉久氏)にご講演いただいた。浅井氏のご講演は非常に判りやすいことで有名であるにもかかわらず、大きな会場を準備できなかったことから、お弁当なしでも聴講したいという多くのご希望に応えにくい結果となったことをお詫びしたい。

実際、アンケートには、今回の教育講演はこの 2 題をさまざまな会で、繰り返し実施してもらおうことが良いであろうというご意見を複数いただくほどの好評ぶりであり、あらためて両講演者と座長には感謝申し上げたい。

3. シンポジウム

午前の会場 1 にて、「MID3 (Model Informed Drug Discovery and Development) と臨床薬理」と題して、川口淳弘氏(田辺三菱製薬創薬本部)、鈴木昭之氏(ファイザークリニカル・ファーマコロジー部)、牛島健太郎氏(自治医科大学薬理学講座臨床薬理学部門)による開発担当者向けのシンポジウムを開催した。会場は、川口氏の発案により、3 名のシンポジストと参加者が相対する形のパネルディスカッション式を取り入れ、通常の講演というよりディスカッションを取り入れやすいものであった。他の会場と異なる内容でもあり聴衆の幅ひろい臨床薬理学会向けに有意義なセッションであった。

4. 特別シンポジウム

午後のホールにて、「Bed から Bench へ、そして Bench から Bed へ」という副題を付したシンポジウムを開催した。

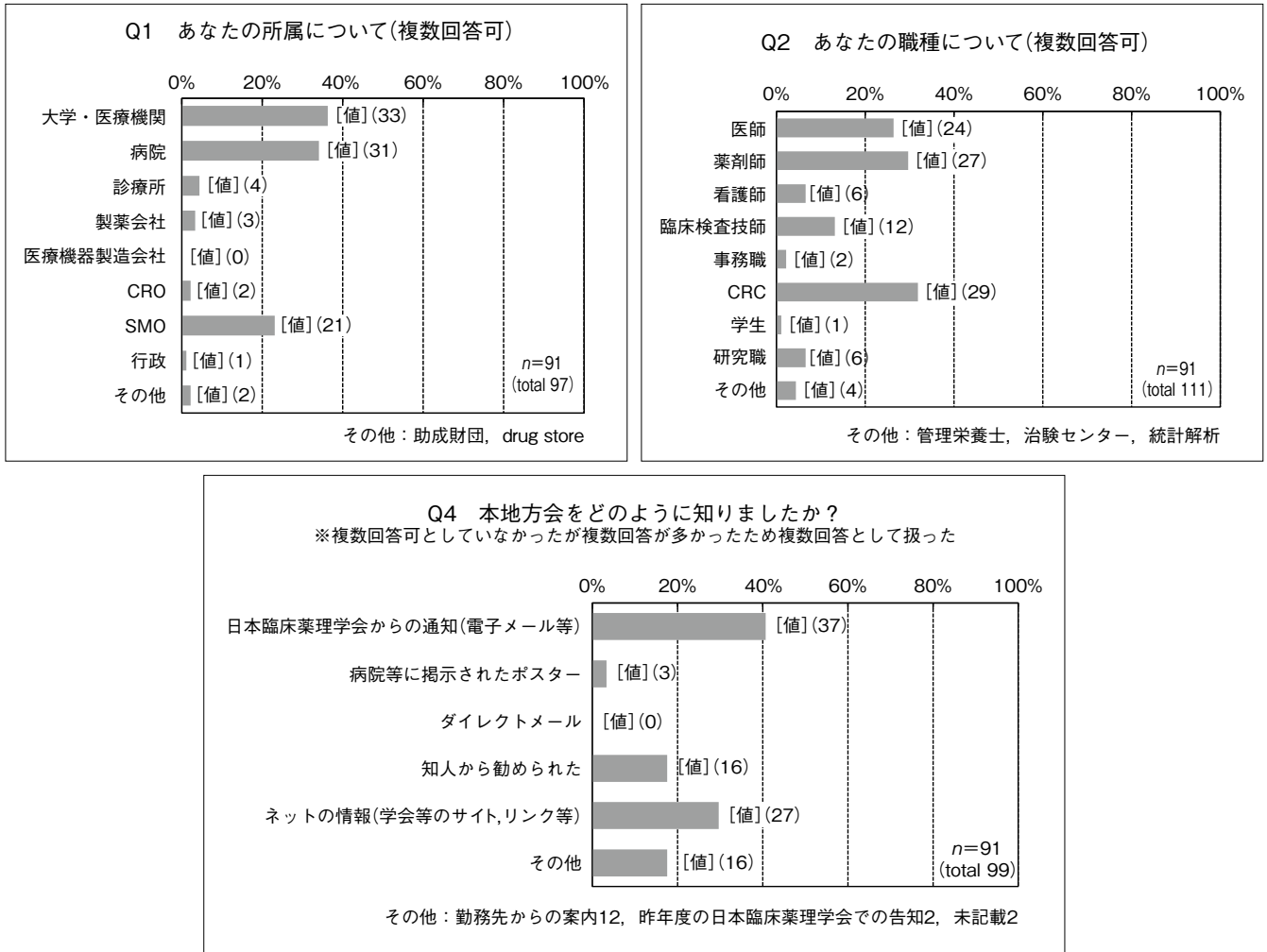


Figure 2 アンケート結果

これは基礎研究から治療法開発へ向かう、いわゆるトランスレーショナル・リサーチという概念に留まらず、知見は基礎から臨床へ、臨床から基礎へと行き来することによって進歩することを、実践されておられる研究者、臨床家のお話を伺うことで、明日からの診療・研究に役立つものと考えて企画したものである(座長：明治薬科大学薬物治療学、越前宏俊氏、聖マリアンナ医科大学薬理学、松本直樹)。

最初の演題は「GPCR と疾患 —新しい調節機構への示唆」を東京大学腎臓・内分泌内科、榎田紀子氏にご講演いただいた。榎田氏らの研究グループはG蛋白に関連する基礎研究で有名であるが、その端緒は比較的めずらしい症例の発見からもたらされることもあると言い、高い臨床能力、真摯に個々の症例に向き合うことから多くの基礎研究の情報がもたらされる実例を含めてご講演いただいた。2番目の講演は「希少難病 HAM の分子病態解明による治療薬開発の新展開」を聖マリアンナ医科大学大学院先端医療開発

学、山野嘉久氏にご講演いただいた。山野氏らのグループは希少難病の治療薬を医師主導治験を行うまでに水準を高めておられるが、そこには疾患の自然歴を明らかにする努力、基礎研究、患者会との対応の全てをバランス良く実行する実務能力が必要なことが判るご講演であった。3番目の講演は「一般社団法人『臨床試験医師養成協議会』の活動と日本臨床薬理学会との連携」と題して、昭和大学臨床薬理研究所、小林真一氏にご講演いただいた。臨床試験の実施には多くの人材の協力が必要で、特に现阶段で必要なのは、臨床研究を理解した医師の育成であること、その育成のための活動がいかなる状況にあるかをご紹介いただいた。

3つの演題を聞き、研究者がいかなる態度で臨むとより良い医療に貢献できるか、人それぞれの解が得られたのではないかと感じられる講演であり、3名の演者には心より感謝申し上げたい。

Table 2 一般演題一覧

一般演題 1 (口演) 10:20~12:05 (会場 2)		一般演題 2 (口演) 13:30~15:00 (会場 2)	
座長: 飯利 太郎 (聖マリアンナ医科大学薬理学) 小川 竜一 (明治薬科大学薬物治療学)		座長: 下田 和孝 (獨協医科大学精神神経医学) 荒川 義弘 (筑波大学つくば臨床医学研究開発機構)	
1. インバースアゴニズム: GPCR の古典的概念の再評価と ARB 佐藤潤一郎 ^A , 榎田紀子 ^A , 間中勝則 ^A , 三谷康二 ^A , 江田真紀子 ^A , 飯利太郎 ^{A,B} 東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科 ^A , 聖マリアンナ医科大学薬理学 ^B	7. テイコプラニンの母集団薬物動態 (PPK) モデルの開発 北原郁朗 ^A , 中村美聡 ^A , 平岡聖樹 ^A , 篠崎公一 ^{A,B} , 斎藤太寿 ^C , 小林義和 ^C , 齋藤雅俊 ^C , 鈴木幸男 ^{D,E} 北里大・薬・臨床薬学研究・教育センター薬物動態学 ^A , 北里大・北里研究所病院 TDM 室 ^B , 同病院薬剤部 ^C , 同病院総合内科 ^D , 北里大・薬・臨床薬学研究・教育センター生体制御学 ^E	1. 丹沢病院における高齢者の薬物処方の実態について 関口剛, 坂上和美, 菅原龍太郎, 高橋広和, 大友雅弘 丹沢病院	
2. コレスチラミンが著効した抗甲状腺薬抵抗性 Basedow 病の一例 間中勝則 ^A , 藤田恵 ^A , 佐藤潤一郎 ^A , 三谷康二 ^A , 飯利太郎 ^{A,B} , 榎田紀子 ^A 東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科 ^A , 聖マリアンナ医科大学薬理学 ^B	2. 臨床データベースを用いた薬剤疫学研究の実際 西田弥生 ^A , 高橋泰夫 ^A , 浅井聡 ^{A,B} 日本大学医学部臨床試験研究センター ^A , 日本大学医学部生体機能医学系薬理学分野 ^B		3. 治験関連文書の電子化に向けて ~今までの経緯と今後の課題~ 嶋口博允, 福永修司, 佐伯康弘 成田赤十字病院薬剤部
3. 頻脈性心房細動を合併した低心機能不全に対するピソプロロール貼付剤の有用性の検討 土井駿一 ^{A,B} , 木田圭亮 ^A , 北山千里 ^C , 土岐真路 ^C , 伊藤史之 ^A , 鈴木規雄 ^A , 鈴木健吾 ^A , 松本直樹 ^{A,D} , 原田智雄 ^A , 明石嘉浩 ^A 聖マリアンナ医科大学循環器内科 ^A , 聖マリアンナ医科大学病院臨床研修センター ^B , 聖マリアンナ医科大学病院薬剤部 ^C , 聖マリアンナ医科大学薬理学 ^D	3. 治験関連文書の電子化に向けて ~今までの経緯と今後の課題~ 嶋口博允, 福永修司, 佐伯康弘 成田赤十字病院薬剤部		4. 聖マリアンナ医科大学臨床研究データセンターの現状 津川浩一郎 ^{A,B} , 山野嘉久 ^{A,C} , 中島貴子 ^{A,D} , 上野隆彦 ^{A,E} , 牛谷真由美 ^A , 桑原理恵 ^A , 藤原佐百合 ^A , 小林理々子 ^A 聖マリアンナ医科大学臨床研究データセンター ^A , 聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科 ^B , 聖マリアンナ医科大学大学院先端医療開発学 ^C , 聖マリアンナ医科大学臨床腫瘍学 ^D , 聖マリアンナ医科大学医学情報学 ^E
4. 心疾患患者における SGLT2 阻害薬 (dapagliflozin; ダパグリフロジン) の使用経験 高木泰, 米山喜平, 鈴木知美, 徳丸睦, 田中修 聖マリアンナ医科大学東横病院心臓病センター	4. 聖マリアンナ医科大学臨床研究データセンターの現状 津川浩一郎 ^{A,B} , 山野嘉久 ^{A,C} , 中島貴子 ^{A,D} , 上野隆彦 ^{A,E} , 牛谷真由美 ^A , 桑原理恵 ^A , 藤原佐百合 ^A , 小林理々子 ^A 聖マリアンナ医科大学臨床研究データセンター ^A , 聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科 ^B , 聖マリアンナ医科大学大学院先端医療開発学 ^C , 聖マリアンナ医科大学臨床腫瘍学 ^D , 聖マリアンナ医科大学医学情報学 ^E		5. 臨床研究支援室立ち上げと医師主導型無作為割り付け比較試験の支援体制について 新島昭子, 田村由馬, 岩瀬利康, 安隆則 獨協医科大学日光医療センター臨床研究支援室
5. シナカルセトの原発性副甲状腺機能亢進症に対する治療効果 間中勝則 ^A , 佐藤潤一郎 ^A , 三谷康二 ^A , 藤田恵 ^A , 伊東伸朗 ^A , 木下祐加 ^A , 飯利太郎 ^{A,B} , 榎田紀子 ^A 東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科 ^A , 聖マリアンナ医科大学薬理学 ^B	5. 臨床研究支援室立ち上げと医師主導型無作為割り付け比較試験の支援体制について 新島昭子, 田村由馬, 岩瀬利康, 安隆則 獨協医科大学日光医療センター臨床研究支援室		6. 医師主導による第一相試験を実施してみても 蓮沼智子, 上村尚人 大分大学医学部附属病院臨床薬理センター
6. バンコマイシン塩酸塩の血中濃度に基づく治療モニタリングに難渋した血液腫瘍患者の症例報告 立沢正臣 ^A , 小川竜一 ^B , 原田好子 ^A , 森本景子 ^A , 下嶋和代 ^A , 有奈々絵 ^C , 宮崎招久 ^D 順天堂大学医学部附属練馬病院薬剤科 ^A , 明治薬科大学薬物治療学 ^B , 順天堂大学医学部附属練馬病院血液腫瘍内科 ^C , 順天堂大学医学部附属練馬病院消化器内科 ^D	5. 臨床研究支援室立ち上げと医師主導型無作為割り付け比較試験の支援体制について 新島昭子, 田村由馬, 岩瀬利康, 安隆則 獨協医科大学日光医療センター臨床研究支援室		6. 医師主導による第一相試験を実施してみても 蓮沼智子, 上村尚人 大分大学医学部附属病院臨床薬理センター

5. 一般演題

一般演題を募集する際には、広く演題を募集するものの、琉球大学・植田氏、東京女子医科大学・志賀氏を中心に実施してこられた「ベッドサイドの臨床薬理学」を意識したものとして、「医師・薬剤師がコメンテーターとして発言する、症例検討会」を実施したいので、そのような演題も奮ってご応募願いたい、とした。結果、Table 2 に示すように、半数は近年の臨床薬理学会らしい臨床研究やその支援に関連する演題で、半数は具体的症例提示の演題を得た。午前の症例検討のセッションの座長は、聖マリアンナ医科大学薬理学、飯利太郎氏、明治薬科大学薬物治療学、小川竜一氏、午後の臨床研究的セッションの座長は、獨協医科大学精神神経医学、下田和孝氏、筑波大学つくば臨床医学研究開発機構、荒川義弘氏にお願いした。

いずれのセッションも多く参加者から、活発な討論が行われ、大変有意義なものであった。参加者の皆様には感

謝申し上げるとともに、手狭な会場でご迷惑をおかけしたことをお詫びしたい。

6. 今後の発展に向けて

今回の地方会は、学会開催に不慣れな者が、開催費用が高めになりやすい首都圏開催をする第1回目ということで、経済的破綻を最も恐れての開催となった。会の運営は「質実剛健」を合言葉に、全て当講座のスタッフで準備し、大学内の協力者を募っての運営であったために、参加者の皆様にはご不便をおかけしたことも多かったと思われる。この場をお借りしてお詫び申し上げたい。

ただ、アンケートでもその点を好意にご理解いただいていた書き込みもあり、大変に嬉しかった。また、何よりも日本臨床薬理学会の立ち位置をご理解いただき、親身に会場提供に際してご支援いただいた横浜市社会福祉センターには特段の感謝を申し上げたい。やはり会場費を抑制

Table 3 アンケート自由記載 (抜粋)

「今後地方会で取り上げて欲しい内容」(自由記載)

- 臨床研究に関して
- データマネジメントの手法など
- 未承認の医療等の研究について研究臨床委員会のあり方について法整備されたら、認定倫理委員会以外の役割は？
- 1) TR:総論及び成功事例、失敗事例、問題点 2) 新規法令及びガイドラインの問題点
- 試験デザイン、データ管理、統計解析の必要性
- 今回の教育講演1, 2は毎回でもよい、繰り返して行ってほしい
- 臨床に結びつく非臨床データの受渡し
- 臨床試験の解決すべき問題 (質的な問題)
- 臨床試験を取り巻く行政的取り決め
- 今回のようにCRCに関する内容も盛り込んでほしい
- 臨床薬理に特化したメディカルライティングや、論文の読み方
- 今回の様な理解しやすい統計・解析をもっと聴講したい
- 臨床試験の最新情報
- 統計CP, r値についてもっと詳しく
- 乳腺・子宮疾患について機序・治療・治験 (最新治療)
- 前立腺がんについて
- 臨床試験の推進について いかにも推進するか
- 教育講演にあたるもの
- 最新の行政・法規・方向性など
- 医師主導治験サポート側からのイロハ
- 法令について
- ポスター演題もみたいです
- また関東ならではの演題もぜひ
- SMOの離職率を減らすためには (成功事例の共有)
- 各種教育講演の充実
- 統計の仮説検定について
- Regulatory
- 医薬品開発における用量設定方法
- 指針や法令などの最新の話題
- 分子標的作用薬の薬理
- 臨床研究実施計画の具体的な作成方法・留意など

「感想等」(自由記載)

- CRCに限らず、他職種が一堂に会して考えられる場になれば、より一層臨床試験の底上げにつながると考えられます。
- 薬理系の回と研究実施実務の回を分けて開催していただきたいです。
- 一般演題のみテレビ会議で全国的に流すなど、ITシステムやアプリなどにも対応してほしいです。
- 点数目的で参加しましたが、意外に勉強になり、面白いトピックばかりでした。ありがとうございます。場所も駅近でとても便利だと思います。
- 教育講演1, 2講師が素晴らしかった。

- 研究を臨床へ生かすというのは本来の目的であるはずだと思います。がその道程がなんて困難なんだろうと思います。どうしたら困難でなくなるのか考えたときに、やはりこういった会を開いて周知してることが1番になると思います。
- たとえば、海外での取りくみシステムを一部だけ取り入れてもうまく回らないので、広い視野を持って取り組んでいくことが大切だと思いました。
- Drの養成は大いに賛成です、やはりDrに動いてもらえるようにならないと回らないと思います。
- 大変興味深いお話をありがとうございました。
- 益々の発展を期待します。
- もう少し人数が入れる場所を希望。
- 本日はありがとうございました。
- 浅井先生の“統計シリーズ”でお願いします。
- 若手一般演題を中心に若手教育・研究を地方会の主目的とするなど地方会の方針が明確に示されると、集客を含めて良いかと思います。スタッフの皆様ありがとうございました。
- 会場2が狭すぎて座れませんでした。
- 学ぶことが出来有意義でしたありがとうございました。
- 小さな会なので、もう少しタイトなスケジュールでも良かったのでは・・・(空き時間が困る)。
- よかったです。
- 教育講演のテーマが非常に興味深く、面白く聞けました。
- 会場が狭いので広いホールのある会場で開催してほしい。
- HTLV-1のお話とても良かったです。
- ホームページも他の地方会に比べわかりやすく、アクセスの写真付地図もとても見やすく迷子にならずに助かりました。
- 抄録にメモ欄も多く良かったです。
- ディスカッション形式とか面白そう。見てみたい。
- 山崎Drの臨床研究の結果≠個人のベネフィットはとても心に響いた。
- 教育講演、シンポジウムに比べ、一般演題の文字の大きさが小さすぎませんか。
- 会場が古かったり通信費をかけなかったりコストをかけないようにしているのがとても良いと思いました。参加費が安くなる。
- YIAなど若手(大学院生)の発表を増やす。
- 当日も参加可能というフレキシブルさが良かったです。
- 異なる立場の演者が対談形式で進める形式は良いと感じました。地方会という小さい規模なので、この様な新しい試みを積極的に行っていけば、より特色の有る会に発展していくと思います。
- 浅井先生の統計の基礎の話は大変勉強になりました。また、違った内容についてもお話を伺いたい。
- CRCの研修はCRC業務に特化したようなものが多かったので、今回の様な研修(一般演題1)薬剤と症例について検討されているのはとても面白かったです。
- 統計学もとても面白かったです。

できることによって、首都圏でも学習の場を提供できることを証明できたことが収穫だったと思う。経済的に厳しくなり始めたところに多額のご寄付をいただいた支援者、広告をいただいた皆様の支援も忘れられない。今後、学会運営に際して経済的困難は増していくと考えられるが、今回は参加者の皆様のご協力もあり一定の方向性が示せたと考えている。

内容に関してはアンケートの自由記載が今後の参考になると感じられた。そのままの内容を共有することで今後に資するものがあると考え、Table 3に示すのでご参照願いたい。今後、益々、地方会が身近な学習の場として発展してゆくように貢献したいと思う。皆様のご支援に感謝するとともに、今後もご支援を賜れば幸いである。